

## 「大衆演劇」の魅力

### — 中年層へのインタビューを手がかりに —

小 高 良 友

#### 【1】はじめに

本稿のテーマは、大衆演劇の魅力の一端を明らかにすることである。

私が大衆演劇と出会って約1年半が過ぎた。当初はここまで大衆演劇が自分の生活のなかで重きを置くようになるなどとは思ってもみなかった。

家族の事情で、2年半ほど前から私は週末は茨城で過ごしている。私の職場は岐阜であるが、妻子が茨城に移ったため、週末は家族といっしょに茨城で過ごしている。そもそも趣味に乏しい私であったが、息子の子守のために始めた魚釣りにハマるようになり、一時は息子を連れて魚釣りにでかけたものだが、息子は成長するにつれて魚釣りにあまり興味を示さなくなった。

もともと私は風呂好きなこともあり、数時間あれば息抜きができる銭湯やサウナに土浦で出かけるようになった。T市にあるいわゆる健康ランドのUは、そのひとつの行き場であった。そこの宴会場で大衆演劇の公演が行われていることはそれとなく知っていたが、古くさいような田舎くさいような先入観があり、自分から進んで見ようとは思わなかった。それに、宴会場では食事ができるようにはなっているのだが、高齢者の寄り合いのようで、何となく恥ずかしく、自分が場違いのように思いこみ、そこへ入るのは避けていた。ところが、風呂行きにも少し飽きてきたころ、宴会場で何が行われているのかを少し見てみたくなり、勇気を出して真っ暗な宴会場に入り込んでみた。そこでは、華やかな歌謡ショーと舞踊ショーが行われていた。最初は立ち見で見ていたのだが、その歌がなかなかの出来であり、舞踊も華やかでかなり見事であった。少し見るつもりが30分ほどになり、次に行ったときには1時間となり、その次のときには、立ち見ではなく座りこんで見るようになった。

そうこうするうち、後ろのほうで見るのは我慢できなくなり、予約席ならば最前列で見られ、しかも安価で見られることを知った。また、舞踊ショーだけではなく、前半の芝居の部分から見たくなり、徐々に予約をして見るようになった。

家庭の事情から、私は生活に疲れていた。趣味も乏しく、

魚釣りに時間的に行く余裕がないなかで、大衆演劇の観劇は数時間で完結し、しかも食事時間を兼ねられるので、時間貧乏な私でも、それなりに効率的に娯楽を楽しめた。何より、1週間の疲れが癒されるような気がした。

そのうち、学問的にも興味が出てきた。私が専門とする臨床社会学では、ストレス解消手段がとても大事なものになっており、大衆演劇はその手段として有望なものだと思えてきた。また、Uのような健康ランドは、高齢者の娯楽の場として注目すべきもののように思われた。

私は「素足フェチ」でもあるのだが、大衆演劇は「素足フェチ」ファンとしては、またとない貴重な場である。その意味でも、私の関心は広がった。また、大衆演劇は、私のゲイ欲求も平和的な形で満たしてくれるのだ。

私は、勤務先の大学の総合福祉学科で社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の養成に携わっているが、福祉の発想からすると、高齢者対策では、体が不自由になった高齢者への対策がどうしても目立つ。しかし、高齢者の多数はいわゆる「元気な」高齢者だ。そのみなさんが、定年後や子育て後の長い人生を、どのように豊かなものにしながら過ごしていくのかは、ひじょうに注目すべき大事な領域であり、経済的にもこれからの大きな市場となることが見込まれる。大衆演劇はその意味でも、私の中で大きな関心事になっていった。

もちろん、まだまだ趣味として大衆演劇を楽しみたい気持ちはたくさんあるし、大衆演劇論そのものを自分の専門にするつもりはないのだが、私のこれまでの学問分野とそれなりの接点が出てきたわけだ。

当初は、大衆演劇が高齢社会にとって大きな意義を持っている、といった趣旨の主張をしたかったのであるが、いざデータ集めをし出すと、ことはそう単純ではないことがわかってきた。私が当初知っている健康ランドのふたつはどちらも大繁盛であるが、そうでない健康ランドも多数あることがわかってきたほか、今後の高齢者も現在の高齢者と同じように大衆演劇を支持する保証は何もない。

大衆演劇についての文献調べを行ってみたが、大衆演劇の役者さんたちに切り込む業績はかなりあるが、大衆演劇のお客さんたちに切り込む業績はさほどではないこ

とに気づいた。私の文献調べの不十分さもあるかもしれないが、私が知っている限りではそうだった。つまり、お客さんたちが大衆演劇にどのような魅力を感じているのかを探っている業績が不足がちだったわけだ。

当初は、20～30代や60～70代のみなさんもインタビュー対象者として考えていたが、いろいろな制約から、今回は、40歳前後代の中年男性・女性2人のインタビューをもとに、大衆演劇の魅力をさぐってみたい。

以下、第2節では、大衆演劇の魅力をさぐる前に、本稿にとって必要な範囲で大衆演劇についての基礎知識の概略をながめてみたい。第3節では2人のインタビュー記録をまとめてみたい。第4節では、2人のインタビュー記録と私の体験をもとに、大衆演劇の魅力の要素を整理してみたい。

## 【第2節】大衆演劇の基礎知識

本節は山路茂則の「体験的案内」<sup>1</sup>に主によりながら、必要に応じ他の論者の案内も手がかりにしつつ、かつ、私の体験も交えながら、大衆演劇の基礎知識を紹介していこう。

### (1) 大衆演劇の定義

大衆演劇とは何か、というテーマ自体、厳密に議論するとたいへんなテーマになってしまう。私はその専門家になるつもりもないし、本稿でそれをテーマにするつもりもない。そのため、本稿では必要最小限の定義を与えておきたい。

本稿は、大衆演劇についての機関誌『演劇グラフ』で登場する劇団によって演じられる演劇を大衆演劇としておく。

『演劇グラフ』は、その発行人の菅野雅之によれば、2006年3月にプレ創刊号が発行され、それから現在まで多くの大衆演劇ファンにささえられてきた。この雑誌により、「劇団はどこで公演しているのか」「全国にはいくつぐらいの劇場やセンターがあるのか」などの大衆演劇の公演情報をファンは得ることができる。<sup>2</sup> 菅野雅之によれば、『演劇グラフ』は、「全国各地にある比較的小規模(200名前後)の劇場またはセンター(健康ランド、ホテルなど)で、観客が分かりやすく楽しめる内容の芝居や舞踊をする。そして観客と舞台上の役者との距離が近く、一体感ある舞台で、安い料金で観劇できる」ものを大衆演劇と定義している<sup>3</sup>。『演劇グラフ』は私も購入するようになったが、全国の劇団の公演情報が入手できる非常に便利な雑誌である。

### (2) 大衆演劇の歴史

橋本正樹によれば、わが国の演劇のすべてがそうであるように、大衆演劇もまた、明治政府によって国劇に格上げされた歌舞伎の影響をうけている<sup>4</sup>。

山路茂則によれば、大衆演劇は庶民の娯楽として戦前から愛されてきた。ところが昭和20年代後半に入ると娯楽の中心が映画に移り、それにつれて芝居小屋が廃館、あるいは映画館に転じていく。さらに、映画に続くテレビの普及によって、大衆演劇の影は決定的に薄くなっていく。<sup>5</sup> この時期に救世主となったのが、ヘルスセンター(健康ランド)であった。ヘルスセンターは日本人の大好きな温泉と芝居が同時に楽しめるとあって大いに繁盛し、そのお陰で救われた劇団も少なくない<sup>6</sup>。

橋本正樹によれば、昭和55年ごろより大衆演劇は「市民権」を獲得し、その後のブームに乗って確固たる地歩を築き上げ、今日に至っている。バブル崩壊後は、舞台に活気がないという関係者もいるが、ここ20年余りは、よくも悪くもない安定期だ、と橋本正樹は見ている。<sup>7</sup>

### (3) 大衆劇団<sup>8</sup>

山路によれば、全国で活動している大衆劇団は約120と思われるが、その数はかなり流動的である。劇団の旗揚げ、合併、休止が日常的だからである。一座の構成人員は平均して14～5名。この人数には裏方も含まれているため、舞台に登場する役者は10名程度というのが一般的である。座員は親子、兄弟など、家族や親戚筋を中心にしており、他の劇団ともつながりが深い。

### (4) 大衆劇場<sup>9</sup>

大衆演劇を毎日上演している「常打ち劇場」は、平成20年9月1日現在、全国で32館、そのうち、大阪市内に7館が集中している。大阪市内での観劇料金は1200円～1700円となっており、前売り券を購入しておく、と200円ほどの割引となる。この値段は、静岡県や岐阜県で私が入館した劇場でもほぼ同様であった。

劇場はいずれも大して広くはない。定員は200名前後であり、最後列の席でも舞台上の役者の表情は十分見えるほどの近さである。

### (5) 日替わりプログラム

大衆演劇の公演は、昼夜2回公演、1公演あたり全3時間15分が標準になっている。「ミニショー」「芝居」「歌舞ショー」の3本立てだが、芝居が長時間にわたる場合には「ミニショー」は省略される。プログラムは日替わりである。昼の部と夜の部は同じ内容だが、翌日は芝居もショーも全く異なった内容のものがかかる。<sup>10</sup>

私が1年半かけて見てきたところによれば、「ミニショー」があるのは「常打ち劇場」での公演で、健康ランドでの公演では「ミニショー」はなく、「歌舞ショー」は「舞

踊ショー」と表現されることのほうが多かった。劇団員が歌を歌う歌謡ショーは少なく、ほとんどの劇団が「舞踊ショー」では舞踊のみであった。健康ランドでの公演の長さの標準は2時間半であった。健康ランドでは、昼はほぼ例外なく芝居と舞踊ショーが行われるが、夜は舞踊ショーのみであったり、夜も芝居を上演するのは週のうち何日かに限っているところもあった。健康ランドでは、昼も夜も内容を毎日替えているところや、前日の夜の部にやった公演内容を翌日の昼に行うところもあった。

## (6) 口立て

特別な芝居には台本が用意されているが、ほとんどの芝居にはきっちりとした台本がなく、稽古は口立てである。翌日の稽古はおおよそ次のように進行する。夜の部が終演した後の舞台に座員一同が座長を中心に座る。座長は明日の芝居の登場人物と配役、そして粗筋や各場面の見せ所などを一気に語る。それを、ある役者はテーブルコーダーにとり、ある役者はノートにメモをする。この間、半時間程度。365日、同じメンバーで芝居をしていると、この方法で舞台が務まるという。<sup>11</sup>

自らが大衆演劇の劇団員となり、その体験をもとに博士論文を1冊の本<sup>12</sup>にした鶴飼正樹は、別の作品で口立てのプロセスを克明に分析している<sup>13</sup>。

大衆演劇を見始めた当初の私は、毎日同じ芝居と舞踊ショーが行われていると思い込んでいた。ところが内容が違っていたため、送り出しのときに思わず劇団員さんに聞いてしまった、「毎日内容が違うのですか?」と。「毎日違うんです!」という返事がすぐ返ってきて私は驚嘆した。

通常は、月単位で同じ公演場所にとどまって公演を行うことが多いようだ。休演日はそのうち1日か2日である。最終日の前日の昼までが公演で、あとは次の公演地への移動となる。それで日替わりで公演内容が変わるとなれば、稽古が「口立て」なのもうなずける。

## (7) 芝居の内容

大衆演劇での芝居の内容は、股旅ものや任侠ものが中心になり、そこへ新派、歌舞伎を素材にした芝居が加わる<sup>14</sup>。

山路によれば喜劇作品の上演はあまり多くないとのことだが、私の1年間の観劇体験では、喜劇作品は3分の1か半分くらいの印象であった。

## (8) 山をあげる

芝居が山場にさしかかると、観客の感情を刺激すべくバックミュージックが流れる。曲は必ず演歌であり、この演出方法を「山をあげる」と称する<sup>15</sup>。

言われてみれば、私の体験でも、芝居の山場にかかるバックミュージックはまず例外なく演歌であった。

## (9) 口上

芝居が終演すると、次のショータイムの開幕まで若干の幕間がある。この時に、座長または幹部級役者による「口上」あいさつが行われる。その目的は、来場の御礼を述べるとともに、前売券や劇団グッズの販売促進である。<sup>16</sup>

口上あいさつでは、座長や花形(若手リーダー)の素顔が垣間見られ、私は必ず見るようにしている。また、前売り券や劇団グッズ販売では、劇団員さんたちが客席に下りてきて直接販売することが多いため、劇団員さんたちを間近にみられるチャンスでもある。劇団員さんたちは濃い化粧をしており、舞台の上で見るのとまた違った印象を観客は楽しめる。お客さんたちのなかには、この時間は退席してしまう人たちもいる。

## (10) 歌舞ショーと祝儀

舞踊ショーは、何本もの芝居を観てやや肩に力が入ったのをほぐす意味合いからサービス的に行われたのが始まりである。それは戦後まもなくのことである。昭和30年代に入り歌謡ショーが加わって、現在上演している歌舞ショーのスタイルが定着する。もともと余興的なプログラムであったものが、いまでは芝居と同等の比重を占めるようになり、各劇団は独自のカラーを出そうと工夫を重ねている。歌われるのはほとんど演歌である。舞踊は主として演歌をバックに舞う。歌舞ショーの途中では、ファンが金封や扇型に組んだ札をひいきの役者の帯や襟に挟んで贈る。この行為をさして「祝儀(ハナ)をつける」という。金銭のみならず、衣装をプレゼントするファンもあり、衣装を頂戴した役者は、次の出番にはそれを着て舞台に立つのが礼儀とされている。<sup>17</sup>

私は当初は、自分が舞台の袖まで歩みよってひいきの役者さんにご祝儀を渡すなどとは思ってもみなかったが、今では図々しくやれるようになった。これは、なにせひいきの役者さんと握手でき、間近に自分という存在をアピールできる機会だからだ。ご祝儀をもらった役者さんたちは、送り出しのときに必ずと言ってよいほど、そのことを覚えていて贈り主に挨拶をしてくれる。

## (11) 送り出し

すべての公演が終了して、緞帳が下りる。観客は席を立ち、出口へと進む。その際に、一座の役者はそろって玄関前に並んでお見送りをする。これが「送り出し」であり、観客と役者とが交流する一刻となる。声をかけあったり、握手をしたり、写真を撮ったりと、これらは、観客との触れ合いを大切にする大衆演劇ならではのサービスといえる。<sup>18</sup>

送り出しは、私にとっても大切なひとときだ。ここまで書いてきて気づいたことだが、山路は常打ち劇場での



様子を念頭に大衆演劇の紹介をしているようである。私はほとんどが健康ランドでの観劇となるため、「緞帳が下りる」よりも「幕がしまる」、「玄関前」よりも「大広間出口」のほうがしっくりとくる。

#### (12) 健康ランド

劇団の数に比して常打ち劇場の数が少ないため、劇場に出ていない一座は、健康ランドやホテル・旅館のホール・大広間などで公演をしている<sup>19</sup>。

健康ランドで公演する場合は、大広間のようなところに舞台がついており、観劇しながら飲食ができるようになっている。お客さんたちは、健康ランドで配付された館内着を身につけながらリラックスした姿で観劇をする。健康ランドでは大衆演劇は「おまけ」のような要素があるため、お客さんのなかには、けんかを始めたり、酔って騒いだり、おしゃべりをして、舞台の妨害になるような場合もあるようだ。

一方の大衆演劇専門の劇場では、観客は演劇を見ることだけを目的に来るので、静かな観劇となり、客層も高齢者に偏っていない印象が私にはある。

### 【第3節】 2人のファンへのインタビュー記録

中年層といえる40代後半のご夫婦が大衆演劇についてインタビュー調査を2012年7月に私が2時間ほど行った。インタビュー場所は、I県にあるT温泉ランドの休憩室である。私もご夫妻も同じ劇団の同じ公演を観劇したあとに私がインタビューを行った。ご夫妻は私の知人であるが、ご夫妻と私は大衆演劇ファンであることを互いに知らないまま、T温泉ランドで観劇していたおりに互いの存在を知るようになった。後日、私がインタビュー調査をお願いした。質問内容は、大衆演劇の魅力が中心になっている。インタビュー内容はI Cレコーダーに録音する許可をいただいた。以下のインタビュー記録では、お二人のことばがほぼ忠実に再現されている。日本語としてわかりにくい場合や、私の質問内容が省かれているために内容がわかりにくい場合には、言葉を補足してある箇所もあるが、それは必要最小限に行っている。同じ種類の内容が時間を違えて登場する場合には、順序を入れ替えている箇所もある。地名や温泉ランド名や劇団名はイニシャルに変えてある。実際は3人対話形式で行われたインタビューであるが、下記のインタビュー記録では独白のようにになっている。また、話の内容がわかるように、小見出しを私がつけている。

#### (1) ご主人へのインタビュー記録

##### ①大衆演劇の魅力

大衆演劇は単純におもしろい。料金が安い。料金が安いから回数行ける。大衆演劇はリフレッシュや、気分転換。大衆演劇を見に行くのは基本的に土日でしょ。ぼくら土日に大衆演劇を見て、次、月曜日から夜中まで仕事しなならんから、家には寝に帰ってるだけや。夜11時に帰るとか、10時台に帰れるときは早いほう。仕事の終わる時間が9時やったら家に帰るのは11時になっちゃう。大衆演劇は、笑いと泣きでしょ、お芝居の。で、舞踊ショー見て。安上がりなりリフレッシュの方法。

##### ②大衆演劇への入り方、観劇歴

ぼくは最初は健康ランドから入っていたから。最初は大衆演劇ではなくて健康ランド。健康ランドに行って、大衆演劇をやつとると知って。健康ランド行って、ご飯食べて、寝て帰っておったのが、大衆演劇をただで見れるやろ。めっちゃおもしろい、そっから大衆演劇に入つとるわけや。大衆演劇から入つとるわけやない。大衆演劇を見始めて5年ぐらいだね。大衆演劇を見るのは最初は恥ずかしかった。おばさんパワーがすごい。健康ランドはまだファミリー層が多いほうだけど。大衆演劇をやる会場はおじいちゃんおばあちゃんの集会場みたい。

##### ③健康ランドの選び方

K市とかT市の健康ランドは、ちっちゃんな温泉よりいい。大衆演劇から入つとる人は、風呂は関係ないけど、ぼくらは健康ランドから入つとるから。だから、あんまりY湯とか行けへん。Y湯は風呂があまり良くないから。

##### ④妻を誘うきっかけ

嫁さんにはお盆休みやから芝居を見よう、とか言うて健康ランドに行ったんやて。お芝居はどっちでも良かったんだけど。K市のM湯やったか。M湯に連れてって、大衆演劇を嫁さんに見せた。そのときの劇団がたまたまKさん。僕は仕事がN市なんで、K市とT市と、あのあたりをうろうろしてた。通勤定期あったから、安い。で、T市は家の近所やから、ひょっとして知り合いがおったらあかん、って嫁さんが言うから。それでK市に行った。

##### ⑤劇場での観劇体験

劇場だけのところには何回か行ったことある。T市とかK市とかで見てる劇団が劇場とか行くと、ぜんぜん気合いを入れて頑張ってるでしょ。何回か行ったことある。追っかけてた。S市のM館だっけ。劇場ったら、なんか芝居を「かー」って見に行ってるから、やっぱりね、行くときはね、自分の見たい劇団でないと、健康ランドから入っているひとは。劇場はお客さんのレベルも高いからね。こっちは健康ランドで慣れてるからな。劇場は役

者さんらも力入っとるから。小道具がぜんぜん違う。M館で見たとき、お客さん入ってたよ。満員になる、そう、通路までいっぱい。地方の劇場ってお客さんが少ないみたい。役者さんに聞いたことある。やっぱりね、5人とか10人とか、だからさ、場合によっては公演が中止になるときがある。健康ランドで大衆演劇を見てる人には、気に入った劇団を劇場で見に行くきっかけにはなるね。劇場は、お客さんも気合い入ってる。芝居中にべらべらしゃべってるひとはおらへん。みんな大衆演劇を「見」に来てる。

#### ⑥劇場や健康ランド以外の公演場

団体客の宴会場みたいなところで大衆演劇をやるのを何回か見たことあるけど、健康ランドと違って、じいちゃんばあちゃんたちの宴会場やから、すごいわびしい感じがする。宴会やからさ、劇場と健康ランドとまた違う。あんまり行きたかないけど、見に行ったことはある。

#### ⑦劇団員のネット

ひいきの劇団のネットは見てる。劇場のほうがかたいへんやとか、しんどいかいいうのはいっぱい書いてある。健康ランドだから楽とかいうて書いてある役者さんのブログがいっぱいある。肉体的に楽なんやない。だって、劇場やったら、ミニショーがあって、お芝居があって、舞踊ショーがあって、それで、2時間くらいの休憩で、また、夜も公演があるから。朝から晩までや。それと、健康ランドだと、ご飯作らんでいいし。ご飯は関係ねーか。ご飯のことは、役者さんから見たら、付け足しみたいな一因やな。

#### ⑧お金のプレゼント

役者さんの誕生日公演のとき、お客さんが1万円のレイを作って役者さんにかけてるのを見たことがある。役者さんに舞台でお金を渡すとき、1万円のひとは1万円だということを見せとる。役者さんが踊っているときに舞台のところに行って役者さんにプレゼントをあげたことは今ところないな。あそこの舞台のところでこうやってやるのは、すごい勇気いる。あれはおばちゃんだからできる。プレゼントをしてくれたお客さんに送り出しのときに役者さんがあいさつしている姿はしょっちゅう見てる。役者さんたちはね、みんなお礼言ってる。お客さんからのプレゼントは劇団員さんの生活費になるんやろ。お客さんからのプレゼントは個人でもらえるんでしょ。確か聞いたことある。プレゼントをお客さんから舞台でもらって、落とした人がおるねん、お金。で、拾わんと帰っちゃった。で、次の女の子が出てきて、それを拾って踊ってた。だから、その子に聞いたことある。あのお金、どうなの？って。そうしたら、もらった人に

渡すらしい。あれは個人のもんらしい。どうなんやな。お子さんの場合は知らんけど。聞いたのは大人だから。

#### ⑨役者さんとの会話

芝居を見始めて、数ヶ月経ったときに、僕も役者さんにちょっと話しかけたいなあと、半年かそこくらい経ったときに、ようやく役者さんに話をしたことがある。役者さんのお子さんが病気で入院してたときがあって、お子さんのことを聞いたのが一番最初のきっかけ。嫁さんが大衆演劇を見るようになったときには、僕も役者さんに話しかけるのに慣れとった。あれね、慣れるのに時間がかかる。送り出しのときに役者さんのほうから声かけてくれるとうれしい。まだそういう劇団は限られてるけど。見てるだけのほうが多いからね。役者さんが話し好きな人やないと、送り出しのときにお客さんは長いことその場におらへん。あれは役者さんが話が好きな嫌いかかわかる。送り出しのときにお客さんが長いこといる劇団を僕らは追っかけてるような気がする。役者さんが僕らに話するんやから、もっと他の人にいっぱい話をしとるからな。必然的に長くなっちゃう。ひとりだと役者さんに話すのに勇気がある。見て帰るならひとりでもいいけど。

#### ⑩夫婦での健康ランドでの過ごし方

夫婦で仕事の休みが同じなのは月に3回くらいしかない。そんときに健康ランドに行くかな。毎週っちゅうわけにはいかないけど。健康ランドには1日おる。12時ごろ来て。ただ、見るだけみて帰るときも多いな。ひとりだけのときは、1回だけ見て帰るほうが多かったんですよ。遠方まで行くから。ひとりだと、昼の公演と夜の公演の間の2時間、2時間がきつい。まあ2時間が限度やろ。嫁さんと健康ランドに来たときは、お風呂はいっしょに入れなから、演劇をやる会場で席とってあるから待ち合わせしようって。風呂に入るときは、その前に場所だけおさえてある。

#### ⑪座長

どの劇団も座長クラスは違う。他の劇団員とはレベルが違う。座長は、おお座長っていう感じ。

#### ⑫大衆演劇での女性

大衆演劇では、基本的に女のひとは、役者さんもおったけど、雑用、裏方さんやった、メインの仕事は。客層からいっても、男の役者さんがメイン。あの世界は完璧に男の社会。

#### ⑬気に入りの劇団

お気に入りの劇団は、Aさん、Hさん、そんなものちゃうか。気に入るいうたら。あとKさん。いろんなところ、T市やK市以外にちょんちょんちょんちと行くいうた

ら、こんなもんや。気に入る劇団は、劇団の雰囲気やろう。劇団さんが話しかけてくれるほうが、行きやすい。役者さんに話しかけるのに慣れちゃってるから、ただ芝居みて帰ってるわけじゃないから。単に芝居見て帰るなら、どの劇団でもいいんだけど。役者さんがきさくな人のほうが。劇団のお芝居のレベルもある程度あるんやけど。劇団Aさんのときはね、話しかけやすい、きさくやった。座長さんとか。

#### ⑭新しい劇団の開拓

新しい劇団の開拓は、今んとこ、こっちが望んでない。このあたり4カ所くらい行きやあ、けっこう劇団が固定されてくる。今んとこもうええや、今まで見た劇団で、って思う。

#### ⑮食事会への出席体験

劇団員さんとの食事会（ファンの集い）には出たことない。あれはね。僕の頭ではすごいハードルが高い。ファンの集いに参加するほど親しいかなって思ったりする。劇団Aさんの食事会やったら、たぶん行きたいなと思うけど。まだきっかけがないな。熱心なおばちゃんは食事会に行く。行ったらどうかかわからへんけど、食事会はおばちゃんの集まりやと。日にちが合わないのもある。土曜日とか日曜日にやってる劇団もある。

#### ⑯お風呂での役者さんとの出会い

役者さんが健康ランドのお風呂に入るとわかるよ。役者さん、真っ白けっけだから、すぐわかる。たぶんこの人や。若い役者さんはほとんど変わらへんけど。

#### ⑰芝居の中身

今日の夜の部の芝居は、主役の人らの芝居の内容は同じだけど、脇役陣の人らはね、劇団によって物語が違うよ。今日はTちゃんの役が目が見えない女の人やっただけど、あれが劇団によっては、お母さんになったり、いろいろ。若い女の子になったり。いろいろ。あれはTちゃんの年齢に合わせた設定なん。

#### ⑱舞踊ショー

今んとこ舞踊ショーのときの踊りに飽きたことはないな。気に入った役者さんの踊りじゃないと、長いと思うことはある。へったくそな役者さんが踊っているときは、引くときがある。Kさんレベルの劇団の役者さんだけが踊ってるわけじゃないときがある。劇団によってはもっとへったくそなときもある。相舞踊（二人での踊り）で二人の踊りが合っていないときはある。練習不足の人が先輩の踊りを見ながら踊って追っかけになってる。テンポ遅れてる役者さんとか、いっぱいおる。それも含めて大衆演劇。同じもんを毎日延々とやってるわけじゃないし。

#### ⑲公演の中身の同一性

U湯は毎日芝居も踊りも違う、日替わり。会場によっては、同じものをやっているとことがある。M湯は前の晩にやったのを翌日の昼にやる。ここT温泉ランドは毎日変えろって健康ランドの経営者が劇団に要求したらしい。

#### ⑳出演料、公演場所の選択権

大衆演劇の会場は劇団に出演料をそんなに払ってないと思う。入場者数からいっても。聞いたことないけどね。わかんないけど。出演料は劇団全体で月に数十万円くらいでしょ、健康ランドが出せるお金は。数万円ということはないと思う。役者さんたちは、どこの場所で公演するかっていう権限がない。自分たちで決められない。手配師がそこいけ、ここいけって言うねん。聞いたことある。劇団Rさんで言うとした。

## (2) 奥様へのインタビュー記録

### ①大衆演劇の魅力

大衆演劇はおもしろい。あとは、笑いの場があり、やっぱり楽しい。大衆演劇は趣味以上だね。趣味もあるけど、やっぱりそれを超えて笑いあり、感動もありますよね。役者さんたちにああいうふうな感じで演出してもらって。素直に面白いですね、それがそのまま入って来るし。仕事で忙しいなかで、大衆演劇見て息抜きもさせてもらって、明日頑張れるとか。大衆演劇はそういう場にもなってるしね。また、お風呂もプラス、体にいい。私たちみたいなサラリーマンの生活でも、大衆演劇はあまり金銭的な負担のかからない、そういう娯楽。そんな高くないもんね。だからね、すべてにね、やっぱりマッチしてるし。

テレビの歌舞伎とか見ても、そんなに面白く感じないですけどね。大衆演劇の内容のほうが面白いですよ。歌舞伎はじっくり見たことはないけど、たまにワンシーン、ワンシーンがテレビで写るけど、大衆演劇のほうが笑いもあるし、冗談っていうか、そういうのも入ってるし。何か、歌舞伎って、そんなに冗談だとか、そういうの無くない？むずかしい。身近に見るからそうなのかな、でも最初芝居はいいや、って言って断ってたのはそこ。最初は大衆演劇に夫が誘ってはくれていたんだけど、どうしても歌舞伎のあのイメージで大衆演劇を見てた。

### ②大衆演劇に入るきっかけ

私は、お風呂もいいよって聞いてたんで。じゃ、1回、それも兼ねて。2010年。ちょうど2年。ちょうど8月が最初だったかな。そのときも劇団はKさんだった。最初に見たのもあるかもしれない。ものすごくインパクトが劇団Kさんにある。1回で「はまる」理由がわかって。最初はなんか、大衆演劇を見てるところを人に見られたらどうしよう、とか。K市のM湯。私がこだ



わっちゃったのがそこ。遠いけど1年は向こうに行つて。でもこっちのお風呂も入ってみて、こっちも温泉でいいじゃん、ってことで。ああじゃあ近場も行こうよってことでね。劇団Kさんを見てから自発的に大衆演劇を見に行きたいと思うようになった。座長さん、素敵だもんね。あら素敵だなんていう、それもあつたしね。面白いし、おフロもいいし。要素がね、重なってるからね。どれがかけてもダメなのかなって思うけどね。

### ③劇場での観劇体験

劇場には行っていない。なんだろう、まだちょっとね。健康ランドだね。まだちょっと朝が弱くてね。それもちょっとクリアできれば行ってみたいんですよ。1回は行ってみたいんですよ、もちろん。

### ④役者さんとの会話

送り出しのときに役者さんにはあまり話をしません。他のひとが話しているときも入っていかない。写真を撮ってもらったり、サインしてもらったり。ほんのちょっと世間話じゃないけど、暑いですけど大丈夫ですか、とかそういう感じの声かけはしますよね。そう親しい感じの話はそんなにはしないですけど。一番、劇団Kさんに通ってるんですよ、私が。それもあって、座長さんも、ちょっとあいそよくね、してくれるんで、そっからちょっと近づくことができた。他の劇団の劇団員さんとはまだそこまで通ってもないんですよ。

### ⑤夫婦での過ごし方

あたしの仕事もお正月もお盆も全部関係ないですからね。夫と健康ランドにいっしょに行くというのは、いい過ごし方を見つけたんだと思いますね。健康的だしね。共通の娯楽ができたかもしれないからね。良かったかな。夫とゆっくり二人でいるっていうのは、ここにいる時間が長いかもね。感動もあるし。リフレッシュ。やっぱり、そっちに行っちゃうんだよね。時間も使えるんだよね、ここで。今日、時間があすぎて何しようかって考えるときもあるけどね。ここで時間もね、使えますものね。食事までできるし。健康ランドでは、簡単に最初お風呂に行くんですよ。で、その後、昼の部の芝居をみて、そっからご飯を食べて、もう1回お風呂入って。それと、時間があると、仮眠室で少し仮眠をして、また夜の部の芝居を見て、で芝居終わって、またお風呂入って、帰る、っていう感じ。用事がない限りは、昼夜芝居を見る。二人で来るときはだいたいもう1日だね。よほどちょっともう疲れたよっていうときは、昼の部しか見られない、ちょっときついつて言って帰って昼寝することもあります。

### ⑥男性役者の魅力

大衆演劇は、女性の役者さんも、きれいでね、素敵ですけど、やっぱりね、こう、サインしてもらいたいとか、握手してもらいたい、写真撮ってもらいたい、となるとどうしても男のひとのほうが多くなりますよね。劇団Kさんの座長と副座長では、私は座長派です。でもね、特別な感情はないんですけどね。ちょっと記念にアルバムじゃないけど。自分の写真も結構好きなんです。アルバムに入れて。そのなかの記念のひとつになればいいと思って。写真撮ってもらって。座長さんたちって、結構イケメンの座長さんが多いですからね。オーラもあるし。座長との写真は、記念のひとつとして。素敵だな、じゃ記念にって感じ。主人は妬いたりしない。だってもう、そういうあれじゃないものね。この日、こういう出来事があつたな、という思い出にもなるしね。私、好きなんです。振り返ったこの頃は、こういうことだったのかな、とか。こういうことしてたかな、とか。振り返るのも好きでね。そういう意味でのアルバムもまた作ってるんですけど。出来事としてもとらえてますね。そのために写真を残すと。大衆演劇では、男のひとのほうが迫力はあるよね。どっちにしても。女性が座長でも素敵ですよ。やっぱり座長さん素敵。最初、女のひとが座長やってるところなんて、って軽くみてたら、そうでもない。すごいですよね、やっぱり座長がつくだけあるなって思っ

### ⑦役者さんへのプレゼント

舞台に行つて贈り物をするということはやってないですね。あれちょっとむずかしいね。

### ⑧ごひいきの劇団

3つの劇団が一番親しいよね。親しくしてもらってる。劇団AさんのA座長は確かに歌はうまくない。おとうさんは上手なだけだね。A座長は、なんだろう、若い座長さん、雰囲気かな。親しくなってるからね。そういう意味でやっぱり。結構、劇団Aさんとは、話します。そういうのもやっぱりあるんだよね。そういう意味も含めてね。劇団Aさんは、なんか、雰囲気。2年も親しくなれたっていう。それもあって足が向くというかね。なんかいいなって思っちゃうのね。親しさも入るかもしれない。思いこみかもしれない。劇団Aさんは、けっこう大入りになるよね。ここでも大入りになる。どこでもね。劇団Aさんのファンも多いよね。劇団Aさんは、話しかけてくれるんよね、劇団員さんが送り出しのときに。やっぱりひいきでも見ちゃってるのかもしれない。いいと思うとね。思いこみもあるかもしれないけど、やっぱり、雰囲気いいよね。顔を覚えてくれてるっていう。それもひとつの魅力。この劇団、芝居が上手なんだなっていう

のも、何回も見てるとわかってるんですけど。やっぱり話しかけてくれる劇団かどうかという要素がお気に入り要素になりますよね。あとは、プラス、アットホームな感じ。話しかけてくれてもお芝居みて面白くなかったら、またちょっとこれは考えるかもしれないね。劇団Aさんは両方がマッチしてるから。

でも定期的に、私たちが気にしている3つの劇団さんが来るもので、新しい劇団に新規に通うというのはなかなかもう、今んとこ無理だね。ここにいろんな劇団が来ても、近くにひいきの劇団さんが来たらそっちへ行っちゃうから。それでなかなか新規が増えない。劇団Uさんもちょっと最近かな。劇団Uさんも人気すごいですよ。芝居も最高で。男の人が多くて迫力があるんですよ。最近、劇団Uさんにも通ったら覚えてくれて、顔を。写真撮るんでも、あいそよく撮ってくれるようになったね。劇団Uさんの座長さんは、あまりしゃべるのは苦手やな。しゃべる座長さんじゃない。写真がコミュニケーションだった。

劇団Sさんは一回見たことあるんですけど。まだ1回くらいだからね、それほどはまだ。K君が劇団Sさんにいて。それが一番長いおつきあいみたいですね。K君はちょっとぼっちゃりした男の子。まだ17歳かな。今は劇団Kさんにいます。

送り出しが長い劇団を気に入ってます。話をしてくれるし。そうなのっちゃうのかもしれないね。いつもふたりで行くから。プレゼントはしないけど印象も強いのかしら。ひとりで行くよりも覚えやすいかもしれないね。ひとりだと、話したいけどひいちゃうという部分、ありますよね。見に行く劇団を3つに決めて行っているから、そんだけ顔を覚えてもらってる。やっぱり回数も関係あるでしょうね。プレゼントは渡してないけど、ちょっとはひいきにしてくれるかなっていうところありますよね。

#### ⑨芝居の終わり方

芝居の終わりがたで、まだ見たいなっていうときがありますね。今日の昼の部の芝居は、大人になって帰ってくれないかな、って思ったりしましたよね。

#### ⑩芝居の同一性

同じ物語でも劇団によって中身を多少変えていますね。同じ芝居しないね。

#### ⑪舞踊ショー

私は劇団員さんの踊りにあきたことないですね。衣装も見たりいろいろ。ネタ切れしないのも確かにすごいよね。

## 【第4節】大衆演劇の魅力

本節は、本論文の中心部分となる。当初私は、大衆演劇の魅力について切り込んでいる業績が皆無だと思いこみ、自分でその領域を開拓しようと息巻いていた。ところが、関連文献を集めているうち、自分の浅はかさに気づくところとなる。大衆演劇の魅力については、すでにいくつか論じられているが、山路茂則のものがもっとも整理されているように思われる。本節では、その山路の整理をまず以下(1)で紹介し、後半の(2)では、第3節で紹介したご夫妻のインタビュー記録と私の体験とを山路の指摘とつきあわせて得られる発見について整理してみたい。

### (1) 山路茂則が指摘する大衆演劇の魅力<sup>20</sup>

#### ①手軽な娯楽

大衆食堂・大衆酒場・大衆理容など、おおよそ「大衆」と名の付くものは、安価で気楽に利用できるのが特徴だ。大衆演劇もご多分に漏れず、入場料が千円から千八百円程度と手頃である。いまどき、こんな料金で3時間も遊ばせてくれる娯楽は見当たらない。また、歌舞伎や文楽となると、高額な入場料に加えて、服装も整えねばならず、場内では咳をするのも気を遣うような雰囲気が漂う。そこへいくと、大衆演劇は散歩がてらに、ふらっと下駄履きで観劇できるのである。

#### ②舞台と客席の一体感

大衆演劇の劇場は、120～200席程度の広さである。一番条件の悪い席でも舞台との距離は知れているので、物理的にも役者と観客とが一体になりやすい。歌舞ショーの時間になると、ペンライトを振るオバさん軍団が出現したりする。ひいきの役者が登場すると祝儀(ハ)を付けるのは、「あの役者は私が育てている」みたいなファン気質である。もらう方も、踊りを途中で休止し、胸に祝儀を挟んでいただく。そしてまた続けて踊るのだが、踊りながら胸の祝儀袋に手を当てて、ニコッと笑ってみせる。

#### ③溢れるサービス精神

大衆演劇はサービスの固まりである。舞台を撮る観客のためには、撮影しやすいようにポーズを決めてやる。歌いながら、場内一人漏らさず握手して回る。大入り御礼の際は、プロマイドなどを撒く。それに忘れてはならないのが座長による女形の舞踊、これがないとファンは大いに不満なのである。そして、幕が下りたら座員全員で観客を送り出す。このとき、座員に声をかける馴染み客も多い。役者と一緒に記念撮影も大歓迎である。



## ④日本人の心に響く狂言内容

芝居の軸は義理・人情。観客はこうした芝居の展開を自分自身の身の上に重ね合わせて泣き、笑い、「ああ、良い芝居を観た」と満足する。大衆の心とぴったり重なった時に、大衆演劇は大きな商品価値をもつ。ゆえに大衆演劇では芸術性云々は二の次であり、いかに観客の心と一致した舞台を務めるかが大切なわけである。

## ⑤癒しの芸能

いま、経済界では、「癒し」をキーワードにした分野の需要がこれから増してくる、としている。それならば、大衆演劇はまさに癒しの芸能であり、爆発的な需要は期待できないとしても、その存在は今後とも有効なものとなるであろう。

2007年から「団塊の世代」といわれる人々が一斉に定年退職を迎える。その数、2000万人。彼らは企業戦士などと称され、会社一途に働いてきたが、定年を迎えて我が人生を振り返ったときに、なにか空虚なものを感じるのではないだろうか。この空虚な心を埋めようとした際、無常観に代表される日本人特有の心理を取り込んだ大衆演劇は、大いなる癒しの一分野を形成するのではないか。

## (2) ご夫妻のインタビュー記録と私の体験とを山路の指摘と照らし合わせてみたときに気づくこと

## ①手軽な娯楽

私がインタビューしたご夫妻も山路と同様の内容を語っており、私も同感である。

ただし、1000円～1800円という「手軽さ」には注意が必要なようだ。私もご夫妻も仕事をしている世代だ。山路も同じだと思われる。仕事をしている世代にとってはこの値段は手軽と思われるが、大衆演劇の現在の客層の主流とみられる「仕事をしていない高齢者」とっては、この値段にも注意が必要と思われる。

私はA県にあるTセンターに行ったおり、劇団員の控え室がお客の待合室と隣合わせになっていることに気づき、ごひいきの劇団員さんの素顔が見たくて、お客の待合室のベンチに2時間ほど座り込んでいた。その間、大衆演劇めあての中高齢者が入れ替わり立ち替わり座りにこられ、期せずしてその会話を聞ける機会にめぐまれた。

その日のTセンターの混雑ぶりは普通ではなかった。これは、入場料感謝デーで800円、それと年金振込日が重なったための混雑らしいが、それだけでもないようである。そのセンターそのものの風呂も魅力のようだ。居酒屋風食事ところでランチがふだんより200円

安かった。「年寄りにとっては200円は貴重だ」とおばさまが話されていた。これは貴重な話だった。他のお客さんの話だと、入場料感謝デーがいつも混雑するとは限らないそうだ。これらの話を総合すると、この日の混雑ぶりになるには、感謝デーのほかに「年金振込日」というさらなる条件が必要である。さらに、他に、温泉ランドでも風呂が良くない温泉ランドでは混雑には至らないようなのだ。

そういえば、インタビューしたご夫妻もお風呂が良くない温泉ランドには行かないとのこと。温泉ランドで大衆演劇を観劇するファンにとっては、そこの風呂の善し悪しも選ばれる大事な条件となる。

私は通常は2カ所の温泉ランドに通っていたのだが、共通しているのは、いずれも1000円に限りなく近い入場料金であることと、本物の温泉をひいている温泉ランドであるという点であった。両者では大衆演劇の会場はほぼ毎回大盛況であった。ところが、お気にいり劇団の追っ掛けをするうち、他の温泉ランドにもいくつか顔を出すようになった。そこでびっくりしたのは、閑散とした大衆演劇会場の温泉ランドもいくつかあったという点だ。初めはその理由がわからなかったが、気づいた一つは、入場料金がいずれも2000円のほうに限りなく近い点と、24時間営業ではないという点であった。温泉ランドの大衆演劇ファンには、大衆演劇観劇以外にも目的があるため、滞在できる時間が長いことも必要ようだ。

## ②舞台と客席の一体感

ご夫妻の話では、山路のこの点の指摘は表面に大きく現れてはいないが、底辺にはこの点が含まれている気がする。私も大いに共感している。私が芝居も観るようになってから特にそれを感じた。私は観劇のおりには、指定席を予約してなるべく最前列で観るようにしている。いくつか理由があるのだが、ひとつの理由は、最前列にいと芝居に参加するチャンスが訪れるという点だ。役者さんたちは、観客からのかけ声を芝居にアドリブで利用することがしばしばだ。お客さんが「あやしいー」とかけ声をかければ、言われた役者さんにたいし他の役者さんが、お客さんもそう言ってるぞと言い、さっそく芝居に取り入れる。そうすると観客たちはいっそう喜ぶ。私も芝居の途中でよくかけ声を入れるが、それをうまく芝居で活用してもらえる。また、役者さんのほうから観客に質問を振ることもある。大学の授業では、教員の一方的な話だけではなく学生が授業に参加できる工夫をすればするほど、学生たちの満足度が上がることをたびたび体験している。それと全く同じとは限らないが、大劇場で静かに観劇する習慣しかなかった私には、大衆演劇

への「参加」は実に新鮮で楽しい。

また、舞踊ショーでは、舞台に駆け寄ってお祝儀を役者さんに渡せるのも魅力だ。ごひいきの役者さんの手に直にふれ、超間近に「スター」の顔を見ながらお祝儀を渡せる。しかもその御礼は送り出しのときに言ってもらえるのだ。

また、たとえ公演会場の後ろの席に座ろうとも、芝居と舞踊ショーの中間地点での口上挨拶のうちに、劇団員さんたちが入場券や劇団グッズをもって客席をくまなく巡回してくれるのも、「舞台と客席との一体感」を醸し出してくれる。

### ③溢れるサービス精神

私は送り出しにたいする劇団の姿勢をあまり重視していなかったが、ご夫妻はこの点を劇団選びの最重要事項としていた。送り出しに長い時間をかける劇団、気軽にお客さん達に話しかけてくれる雰囲気をもつ劇団が、ご夫妻にとって劇団選びの最も重要な条件となっていた。

そういえば、私がいま追っ掛けをしている最もお気に入りの劇団は、お祝儀をさしだす前から劇団員さんが私の顔を覚えてくれ、送り出しのときや芝居終了後の他の時間に館内で私に声をかけてくれたことが、お気に入りの重要な理由になっていた。

### ④日本人の心に響く狂言内容

ご夫妻はこの点をひじょうに重視しているようだ。しかし私はこの点はあまり響かない。芝居の内容は、私の心情にはあまり響くものではなく、むしろ、ごひいきの役者さんたちを間近に観られることや、芝居に参加できるという魅力のほうが、私にとって強い要素になっている。

### ⑤癒しの芸能

この点はご夫妻も私も同感である。

ただし、ご夫妻の場合、山路が踏み込んでいない部分も語っている。このご夫妻にはお子さんがおられない。子育て後の夫婦の過ごし方ではなく、共働きしている「今」の夫婦の過ごし方の有望なひとつとして、ご夫妻は大衆演劇観劇を選択している。

私も兼ねてから妻を大衆演劇観劇に誘ってみたいと思っていた。ご夫妻へのインタビュー後、間もなくその日がやってきた。家族で一泊旅行にでかける前日に息子と妻を大衆演劇の観劇に誘ってみた。息子はたいして関心を示さなかったが、妻はかなり満足していた。そこが温泉ランドということもあり、旅行気分も味わえると妻は語っていた。

私は、高齢者の人口がますます増え続ける日本では、高齢者が経済的に大きなマーケットになると思っているし、そのマーケットのひとつとして大衆演劇は有望な一

分野だと思ってきたが、すでにそのことは山路によって指摘済みであった。

山路は主に高齢者を念頭に大衆演劇を「癒しの場」と捉えているが、私は、臨床社会学という観点から、アルコール依存症、ドメスティックバイオレンス、摂食障害、リストカット、自殺などの現象をみてきて、それらが共通してストレスを発散する場を持つことの重要性を示唆していると思っている。若い世代も徐々に大衆演劇に関心を向け始めているという指摘もあるが、ストレス発散のひとつの場として大衆演劇が活用できないかと私は考えているわけだ。

### ⑥疑似恋愛を楽しめる場

山路の指摘には「疑似恋愛を楽しめる場」という側面が表だってはいないが、私はこの要素はひじょうに大きいと思っている。インタビューしたご夫妻のご主人にはこの点を大きく掘り下げてお聞きしたかったのであるが、奥様を前にしての質問であったため、遠慮をして聞きあぐねてしまった。

私にとっての大衆演劇は「疑似恋愛を楽しめる場」であるという点はひじょうに大切な魅力である。そしてこれは、私にとっては最も大きな魅力かもしれない。私はゲイであるとカミングアウトしているが、大衆演劇でのごひいきの対象は主に男性劇団員である。各劇団とも、座長の年齢はかなり若くなっており、座長や副座長、花形には、例外なくイケメンをそろえている。公演で出会った中高年の女性観客たちと偶然に何回か話したことがあるが、彼女たちにとってはこの点はひじょうに大切な要素のようだ。今回、高齢女性のインタビュー調査を実施できなかったのが残念なほどである。大衆演劇の観客は経験上女性が圧倒的に多い。それにもかかわらず最前列の予約席で私のような60歳近いおじさんが座っており、しかも男性役者さんたちに駆け寄ってお祝儀まであげていると、興味の対象とみられ、話しかけられることが時々ある。私がお気に入りの劇団の話をすると「あの劇団にいい男いたっけ？」などと言われたこともある。

私は劇団員さんといい仲になって「つきあいたい」と思っているわけではない。そんなことができればよいがという気持ちがないわけではないが、結婚しているという制約があり、それはかなわぬことと思っている。しかし、いわゆる「タレント」にあこがれるように大衆演劇の劇団員さんたちに思いを寄せることはできる。60歳近いおじさんから思いを寄せられても先方は不思議だろうが、とにかく大衆演劇の役者さんたちには、テレビや映画のタレントと違って物理的に間近な距離で接近可能であるし、送り出しのときなどに話もでき、いっしょに

写真にも写り、顔も覚えてもらえる。これは非常な魅力である。

#### ⑦足フェチとしての魅力

上記①～⑥までのことは、細部や詳細の程度にこだわらなければ、山路のほかにも似た指摘にめぐりあえた。しかし、「足フェチとしての魅力」だけは、私の知る限りの文献ではお目にかかれなかった。

私はゲイであるとともに、素足に性的魅力を感じる「素足フェチ」である。大衆演劇を観劇してまず気づいたひとつは、大衆演劇の役者さんたちは、芝居のときでも舞踊のときでも、素足で演じる機会がとても多い、という点だ。私はテレビや映画でお気に入りのタレントさんたちがいると、どんな素足をしているのかをひじょうに知りたくなるのであるが、彼らの写真も含めて、テレビや映画などで彼らの素足を見られる機会は皆無である。大衆演劇で何か書いて見たいと思ったこの夏に、インターネットで素足フェチの人たちが作っているサイトをいくつか覗いてみたが、共通していたのは、お気に入りの人の素足をみられる機会、特にタレントさんたちの素足をみられる機会が、日常生活ではひじょうに少ないという点だった。まさに同感である。しかし、大衆演劇では違っていた。ごひいき役者さんたちの素足を最前列で思う存分鑑賞することが可能だ。この醍醐味は素足フェチの人でないと分かってもらえないだろう。しかも、温泉ランドなら、公演の合間に浴場にやってくる役者さんたちに出会えるチャンスがあるのだ。

### 【第5節】終わりに

第4節の冒頭でも触れたことだが、本稿は、大衆演劇の既存の魅力議論に何かを付け加えるということがほとんどできていない。しかし、中年層のご夫婦の具体的な声を紹介できたこと、および、小高という少し特殊な事例も加えることが出来たことで、今回は良しとしておきたい。今後は、高年齢男性・女性と、20代～30代の男性・女性のインタビューも実現させたいと思っている。

言うまでもないことだが、本稿は大衆演劇の魅力を数量的に明かしたかったわけではない。本稿は、大衆演劇の魅力にはどのような要素があるのかを明らかにしたかったものである。

### 【註】

1. 山路茂則「舞台と客席が溶け合う世界一体験的案内」、上方落語をきく会編『上方藝能』170、2008、9-14頁。
2. 菅野雅之「共に泣いて、笑って―時代を超えたドラマの力」、上方落語をきく会編『上方藝能』170、2008、15-18頁、15頁。
3. 菅野雅之、前出、15頁。
4. 橋本正樹「関西旅興業の六十余年史―しなやかに、たくましく」、上方落語をきく会編『上方藝能』170、2008、2-8頁、5頁。
5. 山路茂則、「大衆演劇の風景―第3回 大衆演劇の魅力」、上方落語をきく会編『上方藝能』147、2003、98-100頁、98頁。
6. 山路茂則、前出2008、15頁。
7. 橋本正樹、前出、6頁。
8. 山路茂則、前出2008、9～10頁。
9. 山路茂則、前出2008、10頁。
10. 山路茂則、前出2008、10頁。
11. 山路茂則、前出2008、11頁。
12. 鶴飼正樹『大衆演劇への旅―南条まさきの1年2か月』未来社、1994。
13. 鶴飼正樹「大衆演劇はいかに演じられたか―大衆演劇におけるパフォーマンスとその型について」、『季刊人類学』19(3)、1988、115-207頁。
14. 山路茂則、前出2008、11頁。
15. 山路茂則、前出2008、11頁。
16. 山路茂則、前出2008、12頁。
17. 山路茂則、前出2008、12頁。
18. 山路茂則、前出2008、13頁。
19. 山路茂則、前出2008、13頁。
20. ①～④は、山路茂則、「大衆演劇の風景―第3回大衆演劇の魅力」、上方落語をきく会編『上方藝能』147、2003、98-100頁。⑤は、山路茂則「大衆演劇と日本人の心理」、大阪経済法科大学アジア研究所編『大阪経済法科大学アジアフォーラム』30、2005、12-17頁。

### 【参考文献】

1. 山路茂則「舞台と客席が溶け合う世界一体験的案内」、上方落語をきく会編『上方藝能』170、2008、9-14頁。
2. 山路茂則「大衆演劇と日本人の心理」、大阪経済法科大学アジア研究所編『大阪経済法科大学アジアフォーラム』30、2005、12-17頁。
3. 山路茂則、「大衆演劇の風景―最終回大衆演劇の課題」、上方落語をきく会編『上方藝能』148、2003、100-103頁。
4. 山路茂則、「大衆演劇の風景―第2回大衆演劇は現在」、上方落語をきく会編『上方藝能』146、2002、104-107頁。
5. 山路茂則、「大衆演劇の風景―第1回大衆演劇との出会い」、上方落語をきく会編『上方藝能』145、2002、119-121頁。
6. 山路茂則、「大衆演劇の風景―第3回大衆演劇の魅力」、上方落語をきく会編『上方藝能』147、2003、98-100頁。
7. 鶴飼正樹『大衆演劇への旅―南条まさきの1年2か月』未来社、1994。
8. 鶴飼正樹「大衆演劇はいかに演じられたか―大衆演劇におけるパフォーマンスとその型について」、『季刊人類学』19(3)、1988、1
9. 鶴飼正樹「『根強さ』の理由―今を生きる文化として」、上方落語をきく会編『上方藝能』170、2008、19-23頁。
10. 鶴飼正樹「大衆演劇へのラブレター」、『思想の科学(第7次)』



- 77、1986、16-22 頁。
11. 橋本正樹『あっぱれ！旅役者列伝』現代書館、2011。
12. 橋本正樹『関西旅興業の六十余年史ーしなやかに、たくましく』、上方落語をきく会編『上方藝能』170、2008、2-8 頁、5 頁。
13. 『大衆演劇お作法』ぴあ、2004。
14. 大日方満「(インタビュー) 演者が語るー大衆演劇が持つ力」、上方落語をきく会編『上方藝能』170、2008、26-29 頁。
15. 山根照登「大衆演劇とともに歩み続けてー五厘屋のマジック」、上方落語をきく会編『上方藝能』170、2008、31 頁。
16. 森本利雄「大衆演劇とともに歩続けてー新に開く芝居道」、上方落語をきく会編『上方藝能』170、2008、30 頁。
17. 篠原淑浩「大衆演劇の『ごった煮』の魅力届けたい」、ぎょうせい編『悠＋：はるかプラス』28 (2)、2011、3-5 頁。
18. 塩田潮「劇場の灯を守った女性劇場主の『ときめく恋心』」、『潮』552、2005、326-333 頁。
19. 塩田潮「大衆演劇のメッカ『嘉徳劇場』復興のドラマ (上)」、『潮』551、2005、266-273 頁。
20. 武居智子「大衆演劇、『一座はみな身内』の苦楽」、『婦人公論』92 (6)、2007、38-41 頁。
21. Marilyn Ivy「夢の劇場ー大衆演劇の役者と観客たち」、国際交流基金『国際交流』19 (4)、1997、81-85 頁。
22. 岩松了「スターに流れる『静かな時間』」、『文學界』49 (10)、1995、86-89 頁。
23. 早乙女太一「100 年に一人、大衆演劇界に現れた新星」、『婦人公論』92 (16)、2007、72-75 頁。
24. 橋大五郎「大衆演劇の『玉三郎』15 歳の決断」、『婦人公論』87 (13)、2002、138-140 頁。
25. 丸山あかね「松井誠、美しく、面白く、切ないー大衆演劇スターの劇的人生」、『潮』561、2005、224-229 頁。
26. 枝川公一「上町台地を歩いて通天閣へ。大衆演劇になにわの人生模様を見る」、『潮』419、1994、376-387 頁。
27. 加来宗雄「アングラ劇、そして大衆演劇」、『思想の科学 (第 7 次)』40、1983、42-49 頁。
28. 菅野雅之「共に泣いて、笑ってー時代を超えたドラマの力」、上方落語をきく会編『上方藝能』170、2008、15-18 頁。